

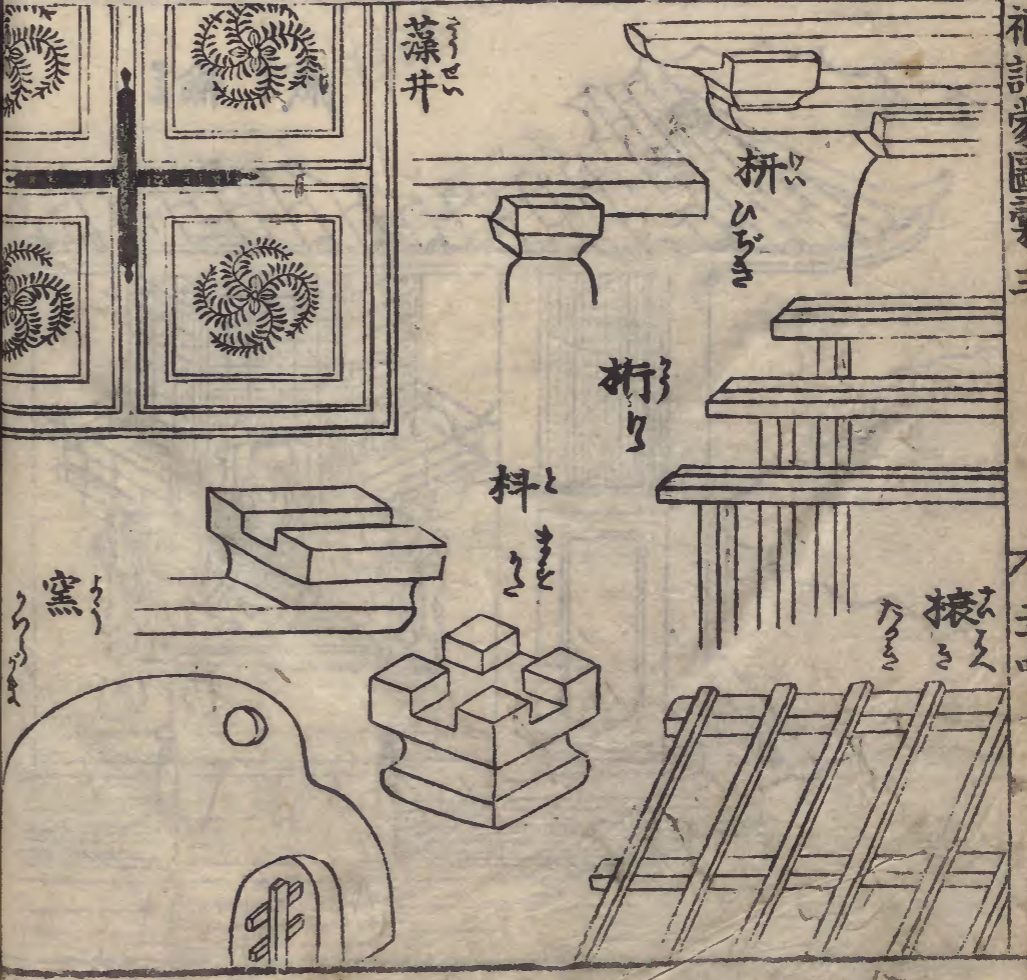
頭書を瓜柄とす事もあつた  
 又衣類を瓜柄衣柄とす  
 翡翠鳴衣柄と杜子美詩  
 瓜をまきり  
 ○椽の椽カケを瓜柄とす秦乃  
 世の椽と瓜の周の世に椽と  
 瓜の齊の世に瓜と椽と瓜  
 ○藻井の天井なり藻と瓜  
 になく藻井と瓜の藻と瓜  
 井との瓜を瓜柄とす瓜の  
 かり天井と書も此意なり  
 みか水の椽とす  
 ○窓の瓦竈かり瓜柄とす  
 カケを竈同みの瓜柄とす  
 ら瓜柄は瓜柄と瓜柄と瓜  
 柄と瓜柄と瓜柄と瓜柄

頭書増補訓蒙圖彙卷之四

人物

此部小の士農工商との不の異朝の國  
 俗をべて一さいの人類の瓜柄の瓜柄あり

○公の三公かた  
 太政大臣左大臣  
 右大臣と三公と瓜  
 内大臣と瓜柄あり  
 唐名の大師大傳大  
 保といふ圃圖と瓜柄  
 東帯は圖あり東  
 帯の帯は瓜柄あり是  
 公卿ともに式禮乃  
 服ありくつも靴瓜  
 柄ありあり



○卿ハ公卿方也  
 大納言中納言ニ  
 位以上ト公卿ト云  
 又月卿トモ云  
 天子に付その  
 故の名圖ニ位以  
 下ト教上人ト云  
 圖トモ云ハ夜冠  
 のていあり是常  
 の服ゆく裾ゆく  
 下ト云貫ハカ  
 束帯ハカト云  
 装束の色ハ位以  
 下ハ黒五條ハ赤六  
 位ハ青色あり

○士ハ士方也  
 學文ト云  
 位にありハ  
 學士ト云  
 文官トモ  
 巾着ト云  
 帯ト云  
 着ト云  
 武士ト云  
 武官ト云  
 四民ト云  
 士農工商  
 商人ト云  
 士農工商ト云



貝子御前川文通卷六

○女にむすめのいしよ○  
嫁 よめ よめ よめ  
女にむすめといふ  
女にむすめといふ  
女にむすめといふ  
女にむすめといふ  
女にむすめといふ  
女にむすめといふ  
女にむすめといふ  
女にむすめといふ  
女にむすめといふ

○女にむすめのいしよ○  
嫁 よめ よめ よめ  
女にむすめといふ  
女にむすめといふ  
女にむすめといふ  
女にむすめといふ  
女にむすめといふ  
女にむすめといふ  
女にむすめといふ  
女にむすめといふ  
女にむすめといふ



翁 (おきな)  
 童 (わらわ)  
 女 (にむすめ)  
 婆 (は)

○兵の武具の  
 惣名あり  
 今甲冑と  
 帯たる武士  
 を兵といふ  
 かんせり  
 我同一  
 頭たる者  
 将といひ候者  
 といふ  
 又軍士  
 軍兵など  
 といふ  
 軍勢の士卒の  
 惣名なり  
 ○農の厲山氏  
 わる農と  
 名はく  
 百穀といふ  
 事なれど  
 ようく物と  
 作らるるもの  
 といふ  
 又神農  
 五穀と植  
 る事とて人  
 をいふ  
 農といふ  
 づらとも  
 づらあり



兵の武具の  
 惣名あり  
 今甲冑と  
 帯たる武士  
 を兵といふ  
 かんせり  
 我同一  
 頭たる者  
 将といひ候者  
 といふ  
 又軍士  
 軍兵など  
 といふ  
 軍勢の士卒の  
 惣名なり

○工の百工とく  
 乃惣名かを  
 工匠ともいふ  
 本工の大工なり  
 漆工  
 補 塗師也  
 其外指物  
 楳杓といふ  
 縮布織物  
 金物といふ  
 是と職人と  
 高のひびき人  
 又わきびと  
 居かぐり賣と  
 賣といひのら  
 うふの高といふ  
 高と書ハ  
 高といひ  
 わやするとなり  
 高買通用と  
 人乃事あり  
 販といひ  
 賣事  
 かな



高買通用と

高買通用と

○醫病治  
 酒飲  
 薬と製  
 面  
 有和  
 丹氣  
 信人  
 ○トハト  
 赴あり  
 者心  
 志と  
 ト物  
 又著



醫  
 九

○膳夫  
 料理人  
 泡下  
 解事  
 今  
 又  
 又膳  
 泡下  
 あり



膳夫  
 あり

須書曾補川...

○畫工の繪師  
 かの唐ふの名  
 画のまゝのりて  
 のびるにやま  
 の巨勢の金剛  
 右法眼元信又  
 雲舟かどじり  
 の名画あり中  
 古へ永徳探幽  
 筆そのかあま  
 あまどもこれ瓜  
 墨と土佐家の  
 禁裏のし繪画  
 あり

○祝の系に賛  
 詞とつゝさ  
 者かろとあま  
 神あまのつ  
 とはわかす神  
 かり又神職  
 さものあまの  
 神直ともいふ  
 ○巫の女の神  
 つららの女  
 巫へ神とよま  
 あまのりあり  
 神あまの  
 とものを按とる  
 に神楽ま  
 あり



頂書留補川原國書本

○僧へ浮圖乃  
 教に志く者  
 方を沙弥  
 門衆に比丘  
 留しものあり  
 又僧正僧都工  
 人和尚長老を  
 僧官多し圖師  
 大師号あり  
 ○尼女僧か  
 比丘尼あり佛の  
 四部の才あり  
 尼姑ともいふ  
 在家門ふもて  
 僧官異あり

○鍛へ磨り  
 推鍊なり  
 金活  
 鍛りあり  
 鍛治と  
 鍛治と字  
 似あり  
 にひり  
 のやゆり  
 鍛治といふ  
 とりなり  
 とりなり



頂書僧補別出図景卷四



○陶家へまゝく  
茶碗鉢皿など  
つゞきのものへ陶  
治しものへ瓦  
さへくへあり  
河濱ふとへ  
るもとへあり  
まへはへあり  
よめとらり  
○冶の鑄匠  
爐匠ともへ  
火鉢其外金  
具のありあり  
唐の虫か  
りのつらり

○鬼の人死  
肉骨至小  
血の水小  
氣の天と  
陰の氣  
存して依  
かへり  
鬼と  
おの遷り  
かへり  
く唐に  
五和朝  
の仙人



山崎闇室三郎

○佛ぶつの西方さいほう乃なり  
 聖せい人にんカガ  
 如來にょらいももつ  
 佛ぶつのふ佛ぶつのふ佛ぶつ  
 とし凡人ぼんじんよ  
 わさささば  
 かな  
 ○薩さつのさつ菩薩ぼさつ  
 かなと善ぜんいのみ  
 後ご薩さつのさつのの  
 としむわささ  
 く衆しゆ生せい依い  
 さんさん  
 あああり  
 ○樂がくの八音はつおんと  
 あく  
 奏そうとあり  
 補ほ樂がく人にんの  
 昔むかし帝ていののと死し  
 伶倫れいりんとと者もの  
 樂がくととと  
 よめと樂がく人にん  
 補ほと伶れい人にんと  
 樂がく孤こ管かん笙せい  
 とし日本にっぽんの  
 樂がくと神かみ樂がく  
 としあか  
 かない入いりの  
 わさ



頭書  
 補  
 三  
 天  
 四  
 不  
 四

頭書  
 補  
 三  
 天  
 四  
 不  
 四

俳優 えいゆう  
 能優 のうゆう  
 能優の雑戯 のうゆうのざつぎ  
 ありとわな  
 ちのまの冷い  
 狂言所の  
 をぐひ  
 後樂の歌 ごらくのうた  
 送ひわろ おくひわろ  
 素盞馬の すさのおの  
 みらこり  
 〇深田のふふや 〇ふかたのふふや  
 郷友茶深 きょうゆうぢあふか  
 どのふかり  
 〇蟻婦の蟻 〇あみごのあみ  
 ひくこり  
 とも女ありけり  
 親に孝けり  
 女死して  
 蟻婦 あみご  
 ひとあや  
 〇能の素 〇のうのす  
 きつと  
 んたを親  
 やかひ  
 んふたり



〇能の素 〇のうのす  
 きつと  
 んたを親  
 やかひ  
 んふたり

〇能の素 〇のうのす  
 きつと  
 んたを親  
 やかひ  
 んふたり

機女 とうり

○機女いりわじ

よむと兵服  
綾織と

りる二今

女ささるる

とうりともあ

あくあり

一とくやと機  
美の織おと

をる下機  
布本綿

かどと

○矢人の矢相あり  
矢の唐也の年暮  
り人相を始む厚  
際と云人始もさ  
わりの神代始  
○弓人の弓削也  
弓の唐氏より始  
又黄帝堯舜より  
始も又黄帝は  
揮と云人始もさ  
目かけて神代始  
○函人の鏡もく也  
鏡の唐始て他  
又黄帝の時玄女  
始て他ともい  
日本は神代始

機女 とうり



矢人 ヤミ

弓人 ヨゲ



函人 さく

頁下 曾 浦 川 水 田 原 不 田

○硯ハ黄帝玉灰  
 以て始く造り入  
 るる硯と墨池と云  
 ○銀匠ハ白く○さく  
 とりハ刀のさき目  
 音ハ銀匠のさき  
 人あり  
 ○玉人玉と琢磨  
 とりハのありさき  
 玉のさき目と玉と云  
 海より出ると珠と云  
 ○櫛ハ伊井謀る  
 の所とさきけりえ  
 下りハ是と揚  
 津の凡櫛と

○烏帽子折ハ糸  
 都室町三条に  
 のり烏帽子の立  
 烏帽子は是の任  
 の着ハ糸の折  
 風折糸折糸折  
 右折小結荒目  
 糸あり  
 ○襟匠ハ今又  
 表具師の  
 事なり  
 表補とも表襟  
 糸も表  
 紙も同



須賀曾南川文圖

○傘云雨傘日  
 傘挑灯とんか  
 こんく人あり  
 ○皮匠の今又  
 袋屋カどあ  
 又切分屋と  
 皮匠のくど人  
 ともい  
 ○針磨の京師  
 小路の名物  
 今三条寺町の  
 色に多くあ  
 すやと針とた  
 賣弘のさ  
 ○牙婆の今  
 とのひあり夜  
 ねとさ  
 うととと  
 かり  
 ○筆工の筆  
 筆のり  
 て蒙帖と  
 此のり  
 ○薦僧の  
 もの  
 宗とも  
 露とも  
 八と  
 乃と



須書曾南川家圖景四

十四

須書曾南川家圖景四

十三

○石工石を切て  
 石垣石枕石  
 橋石塔石と云  
 りのありあめく  
 器はつらふとい  
 人ともいふ  
 葦とりつく葦を  
 へまきふふるとい  
 の巧者の今といふ  
 た宮あり巧人  
 とも泥工とも泥  
 匠ともいふ  
 巧い巧いといふ  
 電まのいふ  
 とりのともいふ

相撲使

の相撲の乃見

宿称と

搬速と

りの二人

取らぬめ

おろり

角抵と云

膂力と

いふ

かや



巧者

いふ

石工

いふ

相撲使

いふ

いふ



○侏儒のめづり極  
 き人とのみ今つふ  
 一寸やじりあり短  
 人ともつ  
 ○蛇背のめづり極  
 医書あくい無背  
 どの小背のまゐる  
 と稜駝らみ蛇る  
 にいふゆゑせいの  
 人と蛇背らみ定  
 ○兎唇のめづり極  
 兎唇のめづり極  
 赤子のめづり極  
 の介種ふゆぬ  
 ともよみ成人して  
 うぬゆのあり



○扇のめづり極  
 りみよはけり  
 日本にけり  
 神功皇后の  
 した蝙蝠の羽  
 とつてつく  
 といひしとあり  
 系はくはまの  
 堂と貴と  
 ○漆匠のめづり極  
 といひ今つ  
 といひ今つ





○蟹人の海中  
 昆布の糸  
 女の人とも  
 又煙くむ女  
 ものま  
 海人も  
 女の業か  
 又煙くむ女  
 ものま  
 蟹人の海中  
 昆布の糸  
 女の人とも  
 又煙くむ女  
 ものま  
 海人も  
 女の業か  
 又煙くむ女  
 ものま



蟹人

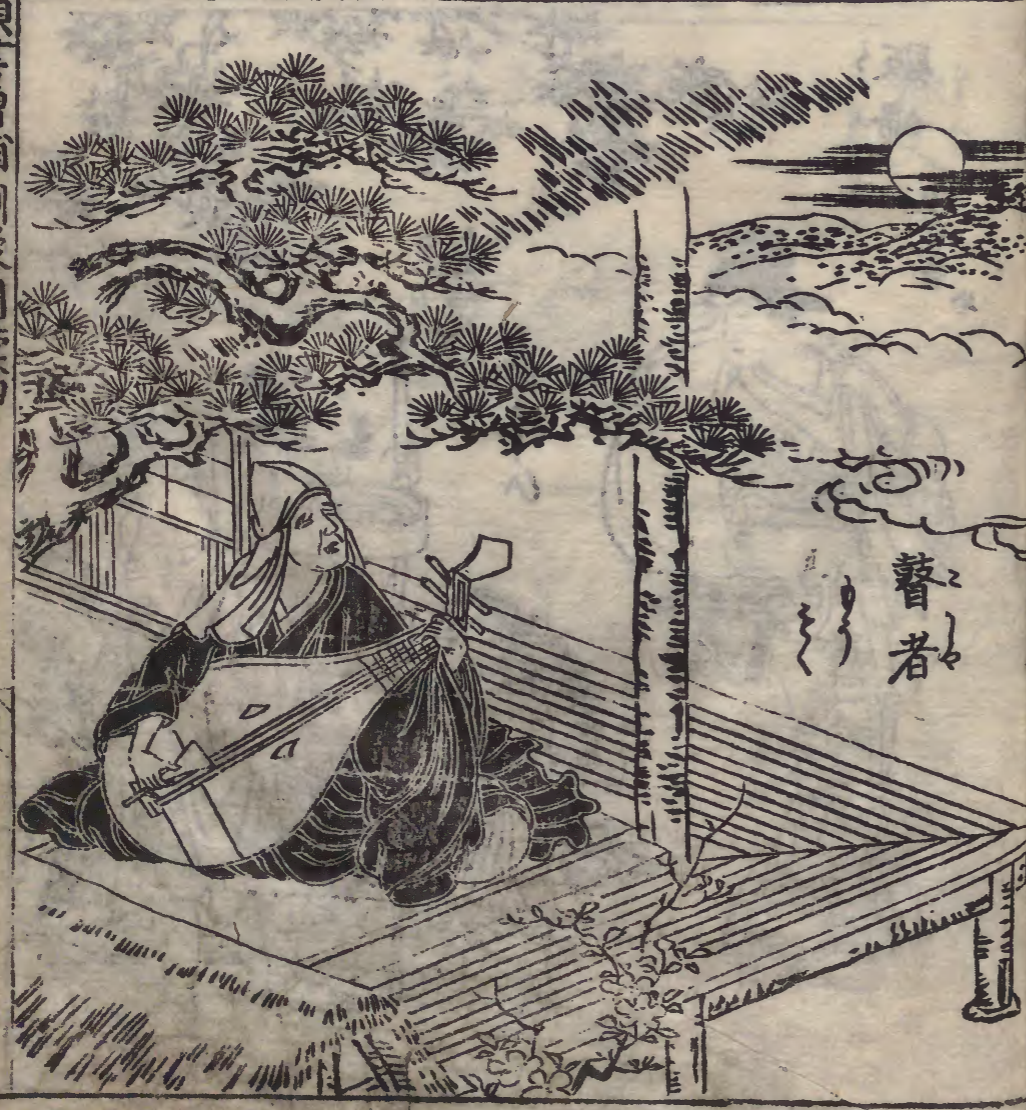


釣叟

樵夫

○釣叟  
 日かふも  
 又煙くむ女  
 ものま  
 海人も  
 女の業か  
 又煙くむ女  
 ものま

○獵師キリシハ弓ユミ  
 鉄炮テツポウト云々  
 鳥獸チウゾウト云々  
 ありあり  
 虚義キョウギ氏ウヂノ世ヨ  
 天下テンカニ獸ケモノ多ク  
 田畠テンパチト云々  
 あん故コト今イマ  
 獵リョウト云々  
 冬フユノ獵リョウト云々  
 海ウミ何ナニも魚イサト  
 補ホ  
 ○瞽者コシヤハ目メカ  
 りあり盲メクラ  
 目メ盲メクラ人ヒトト云々  
 論語ロンゴハ冕ミカド  
 者シヤト瞽者コシヤト云々  
 補ホ  
 又マタ琵琶ヒパ法師ホウシト云々  
 ひろみヒロミ彈ヒキト平家ヘイカ  
 三弦サンゼント云々  
 檢校ケンギョウ勾當コウドウ四分シブン  
 力チカラト云々  
 補ホ



東洋雜記  
 卷之四  
 四

東洋雜記  
 卷之四  
 四

十七

○販婦のあそび  
あひとせう  
女とりを買婆  
都ふすけ  
都ふけり  
わりの  
乞兒の巧人  
乞兒の巧人  
乞兒の巧人  
乞兒の巧人  
乞兒の巧人

○漁父のあそび  
あらとせう  
世ふ天下に水  
今獵師と  
舟子は今  
船頭あり海  
と後を舟より  
久笑ふも棹  
ふともつて船  
川舟は松竹

舟子今  
漁父



漁父  
舟子

舟子今  
漁父

○販婦のあそび  
あひとせう  
女とりを買婆  
都ふすけ  
都ふけり  
わりの  
乞兒の巧人  
乞兒の巧人  
乞兒の巧人  
乞兒の巧人  
乞兒の巧人

○漁父のあそび  
あらとせう  
世ふ天下に水  
今獵師と  
舟子は今  
船頭あり海  
と後を舟より  
久笑ふも棹  
ふともつて船  
川舟は松竹



販婦  
乞兒

鏡造鏡と  
 天の糠戸と  
 神天照之神  
 の市教と  
 うろ七路て  
 神つかりの  
 鏡の姿善悪  
 曲直瓜  
 正し汲みん  
 神香ふ鏡と  
 樹のこの



牧童の廣野  
 小く牛馬  
 に牧とる  
 童かり牧童  
 遙指杏花  
 村と詩小  
 も作る牛飼  
 もとる必  
 笛吹  
 人々牧笛と  
 又詩小牧童寒  
 笛倚牛吹  
 夕暮も左平  
 七姿



○娼婦の倡優と  
 て女の樂と奏する  
 りの多り娼の狹  
 かなる倡と書へ  
 又倡妓もいふを  
 長びくの事ほく  
 今へ絶てりなや救  
 て聞ふがと中比白  
 拍子とらふのあり  
 今又遊女衆も  
 かのの教かえんり  
 傾城又傾園など  
 又人のいれあふ  
 かなんびりり  
 わささうた園



○渉人の渡  
 守なり  
 大河小川と  
 舟はくむ  
 ふのき一人  
 そものあり  
 大河ゆは  
 舟はくむ  
 性来の人の  
 たをけと  
 あらかり



舟はくむ大河小川と

○傀儡師の  
 人形まじ  
 の事あり  
 できい何と  
 又、浪路者  
 毎年の正月  
 近き絶てこの  
 田楽法師と  
 名をうとす  
 まり



傀儡師  
 てんごう

○駕輿丁の  
 事あり  
 酒公源政  
 藤二と流政  
 て大なる男  
 あり、駕輿  
 も流政と云  
 ○浪人とも願  
 浪人  
 浪人  
 浪人



駕輿  
 丁

浪人

○車借の車つひの事多り多し其の白川ふあらし庭訓にえらり今んさ其外取にわる也天子の車つひと御者とも徒御とも合人ともいふ

○問九の今ん問九の事多り青袋乃相場取毎日問あらし今ん多り

○馬借の馬奴又の馬口旁ともいふ大津坂本の馬借と庭訓にわり今ん多し

○伯樂の馬の病とて今ん多し人狐伯樂といひし一に京室町まの

けりや室町の伯樂と庭訓に



伯樂

馬借



問九

車借

到書指神言夢區四

○土器の京  
 西山嵯我  
 又北山畑枝  
 下へ深草を  
 下へはくし出  
 せり庭訓  
 にも差我  
 かつりけとわり  
 ○大原の黒木女  
 京北山人系  
 の女黒木といふ  
 きて系に出て  
 わさあふ事い  
 ひ平れ惟盛  
 の妻河波の内  
 おりくに候  
 てせりまろ  
 のうめ賣あひ  
 くと始まろ  
 そのかへ八波  
 又の雲か畑る  
 雄の梅か畑る  
 ほか女本葉  
 とわさあふ事  
 ○屠者の牛馬の  
 肉と屠割の  
 あり今  
 穢多かる  
 又屠鬼とも  
 つらり



貞享四年刊 大田南畝



○中國中華とも漢  
 とも唐ともいふをたは  
 ばく明といひしが鞞  
 鞞ふちさかひ今ハ大  
 清といふまやこあり  
 ○朝鮮國のひうし三  
 韓といふ三國多し新羅  
 百濟高麗といひしが  
 今ハ一國も多し日本ハ  
 あつたふかや  
 ○琉球國ハ中山國と名  
 つく日本にちかぢら男  
 ハ羽衣といふ冠  
 珠玉といふる女ハ百羅  
 といふて帽きて雜  
 ○天竺の仏教ありて  
 まく大國の大熱國  
 かなと函ハ小聖水の  
 まくく風濤とや  
 び商人琉璃の壺ハ  
 ろく水といふるま  
 ○蒙古の鞞鞞の一種  
 ありて日本（攻まら  
 神風ふ吹破らまると  
 かり是と蒙古國  
 裏といふあり  
 ○肅慎の女直とも女  
 真ともいふ國人といふ  
 くちて道とゆく事  
 鳥のさぶささといふ  
 てのいふを名づく

中國

琉球

朝鮮



天竺

蒙古

肅慎



頁書曾甫刊文同書日

○占城(ちんせい)らんえん  
 とり安南(あんなん)に近  
 き國(くに)を大象(だいじやう)  
 多(おほ)く玉(たま)小(こ)鱉(かめ)を  
 公(こう)事(じ)詔(しよ)新(しん)の者(もの)  
 のりて狸(ね)非(ひ)分(ぶん)明(めい)  
 かなる鱉(かめ)よわふ  
 科(か)のりもの鱉(かめ)と  
 食(く)食(く)とつら  
 ○安南(あんなん)國(くに)の交(まじ)趾(し)  
 とも東京(とうきやう)とも云(い)  
 男子(なんし)の盗(ぬす)とこの  
 女(め)の淫(よ)とこのむ女(め)  
 をめとつ小(こ)媒(ま)む  
 ちんらんわの合(あ)國(こく)  
 桂(けい)と上品(じやうひん)とも  
 ○暹羅(せんら)の國(こく)小(こ)海(かい)  
 濱(は)む一(いち)男子(なんし)の  
 ろひ多(おほ)れつ湯(ゆ)瓜(か)  
 う甘(あま)波(な)非(ひ)とも  
 つい國(こく)の深(ふか)を  
 めとつ日(ひ)をにちや  
 むんとつあり  
 ○東番(とうばん)のたご  
 ともすたのん國(こく)  
 ともい安南(あんなん)にち  
 きをひとほあり  
 補(おぎな)ひ一(いち)國(こく)性(せい)耶(や)の  
 國(こく)はさつとつ信(しん)と  
 一(いち)かり今(いま)唐(たう)に後(ご)

占城(ちんせい)らんえん



安南(あんなん)つらち

暹羅(せんら)ちやひら

東番(とうばん)たご



順(じゆん)正(せい)道(だう)神(しん)川(せん)大(だい)國(こく)東(とう)京(きやう)  
 七(しち)二(に)

○南蠻の阿媽港  
 人あり阿蘭陀  
 け類かんをとりて  
 南の嶋國とかん  
 かんといふ其品類  
 多くわけて人物  
 種々にまきり  
 西の多びと公西  
 戒といふ是もその  
 數多くわけて  
 ○東夷の蝦夷人  
 あり人物勇猛に  
 ちて常小山野に  
 出て獸を射り  
 又海中の魚類

物トて中國より  
 東にあり島國は  
 東夷といひ西は  
 嶋國と西戎といひ  
 南にあり公南蠻  
 といひ北にあり狐  
 小狄といふ  
 ○呂宋の島とん  
 て中國ふらうと  
 ぶらうとく器と  
 製し縮とを  
 といふ  
 ○長脚の足むら  
 國ありくち  
 る幸獸のこ



南蠻の阿媽港

東書地神言場圖卷四

○長臂月國の  
東海の  
あぬらふ多  
國人もあぐ  
して地ふら  
布衣とさる  
長一丈三尺八寸  
又臂かなと  
くふもの  
無臂國と云  
又臂ひら  
あふはも  
あり一臂國  
と云

長臂の國



○崑崙の西南  
の海中に嶋國也  
その人物色々  
きこく黒漆を  
こし海底に  
自由狐多と云  
よくさたふの  
よく狐場と云  
よく異國の渡  
海の船ふらふ  
此崑崙と云  
くろくといふ色  
黒さゆのと崑崙  
坊といふ

崑崙



東書地神言場圖卷四

○小人國此國東方にあり身の長九寸二八八寸と云ふは国は鶴の島ありて小人と云ふは鳥のりて小人と云ふはさるるもさるとててひよりひよるはわまのりつらたらゆらゆら  
 ○長人國はひひ明吹の人多風小船と島にゆるる人の長一丈余ありて水とありてあり

# 頭書増補訓蒙圖彙卷之五

**身體**  
 此部は耳目鼻口毛髮頭足のまゝにしてて人の身の子れ事あり

○頭頂額碎谷額頬輔車領頸結喉この下の唇黒子黒痣皺をさ首同  
 ○口吻明も小くらも  
 どのあり唇のらげ人中へはさのれれを齧るはと  
 ○目眼の肝の臓のつらふらふらり睛眸眇驗外皆内皆眩翳淚雀目近視  
 ○耳の腎のつらとあり

